

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2373500145 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 知多学園 | | |
| 事業所名 | 前山ホームらく楽(東) | | |
| 所在地 | 愛知県常滑市金山字前田129 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年3月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月4日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

農面に立地しており、施設前の川沿いを利用者の犬と散歩するのが日課となっている。町内会に入り地域行事にも積極的に参加していることから近所の方とも顔なじみで畑をやっている方から野菜の頂き物があったり収穫をさせていただいたり交流が続いている。また、日頃お世話になっている地域役員の方、ご家族やボランティアさんを年に2回の食事会に招待し、交流を図っている。

医療面では昼間、看護師が在籍しており必要時の受診、家族への医療的な説明や報告などは看護師が行っているため、利用者、家族共に安心して過ごすことができている。家族の希望から看取りを行うケースも度々あり終の棲家として最期まで利用者に寄り添ったケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い田畑と秋桜畑を眺めることができる集落の一角にオレンジの屋根とクリーム色の平屋建てグループホームが建っている。この地に移転して8年目を迎える事業所は、町内会に加入し、地域行事「盆踊り大会、歩こまいか大会、敬老会など」の際には、職員が事前の打ち合わせから運営に関わるなど地域の一員としての役割を担っている。入居者と一緒に地域行事に参加したり、日々の散歩を通して、また、年2回お世話になっている地域の役員やボランティア、家族等を招いての食事会などをして交流を深め、地域に溶け込んだ暮らしをしている。入居者は、吹き抜けの明るい居間で食後のひと時、想いでアルバムを懐かしそうに見ながら、会話をしたり、テレビを見たりしてゆっくりと過ごしている。看護師を中心に入居者の身体状況の把握や職員全員による入居者にしっかり寄り添ったきめ細やかなケアが、本人や家族に伝わり、終の棲家として望まれるようになってきており、見取りを希望する入居者や家族が増えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事務所のわかりやすい所に貼ってるので共有しやすく実践できている。 | 理念は、誰でも目にしやすい玄関と事務所に掲示している。カンファレンスや申し送り時等に振り返り、気づきを共有しながらケアにつなげている。職員の人事考課面接時に共有と実践について理解を深めている。当地に移転して8年が経過する中で、理念の見直しを検討している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の盆踊りに参加したり犬の散歩でも挨拶したりと交流できている。 ・地域の一員として地域行事の際は事前の打ち合わせにも参加し運営にも関わっている。 | 町内会に加入しており、職員は地域の一員として地域行事の際は運営にも関わっている。回覧板や運営推進会議で情報を得て、盆踊りや歩こまいか会、敬老会などに積極的に参加している。5月には近所の方と「葦まき団子」作りを楽しんだり、忘年会では入居者家族や地域のお世話になった方々を招き交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・運営推進会議の場で日頃の支援の内容を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・今後のサービスに活かせるよう運営推進会議では意見や質問をいただいている。 | 入居者家族や区長、民生委員、包括支援センター、行政、法人職員等の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所の現状や行事報告、職員の研修報告などを行い、出席者からは情報を得たり、意見やアドバイスを獲得、運営やサービス向上に活かしている。同時に毎回テーマを決めて勉強会を行っている。 | 運営推進会議は、多くの出席を得ており、質疑等も活発に行われている。家族・行政・地域代表など立場や名前がわかる名札等の工夫をして、話し合いがよりスムーズに行われるような取り組みを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・運営推進会議に出席していただき、サービス内容を報告をしている。また、毎回違ったテーマで勉強会を行っている。 | 市職員が運営推進会議に出席している。認定調査や申請代行等で窓口を訪れ、情報交換や相談、アドバイス等を受けている。市主催の研修会や交流会に積極的に参加し協力関係を深めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・研修などの勉強会に参加し、ミーティング内でも拘束しないよう話し合いが来ている。 ・安全のために施錠は行っている。しかし他については身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 法人全体で身体拘束をしない取り組みを行っている。法人内の研修や内部研修があり、ミーティングでは実例をあげて具体的に話し合い、拘束について内容を正しく理解するように努めている。安全性に配慮し、玄関は施錠されている。転倒のリスクが高い場合は家族も同意の上で、ペット柵センサーを利用している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | ・研修などの勉強会に参加、実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・ケアマネは制度について研修会で学ぶ機会をもち、実際に利用者で制度を利用している方もいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約時、難しい言葉は言い換え、家族に分かりやすいような説明をすることを心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・直接家族に声を掛ける事は出来ていないが、利用者からの要望は記録に残すよう努めている。 ・面会時に日頃の様子を家族に伝える事を心掛け要望があればそれをミーティングで話し合ったり記録に残すようにしている。 | 入居者からは日々関わりの中で把握し業務日誌等に記録し、その都度検討をしている。家族からは運営推進会議や面会、行事の時など機会を捉えて声掛けを行い、意見や要望を聞き記録し、ミーティングで協議し運営に反映させている。月1回のお便りで情報を発信し家族に安心を届けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・運営に関する提案があれば管理者に伝える事を心掛けている。 | 日常の業務の中や朝・夕礼ミーティング、月1回のカンファレンス時などに意見や提案、要望を聞き、話し合っ運営に反映させている。また、年2回の人事考課でも意見や要望、悩み等聞く機会を設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・キャリアパス要件と人事考課面接の連動した取り組みを行っている。 ・より働きやすいように福利厚生の実施にも努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・面接などで要望を聞き、希望する外部研修に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・愛知県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修会などを通じて交流がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・面接の段階からのアセスメントで本人が求めていること不安に思っている事を本人及び家族から聞き出した上でケアプランにあげ出来るだけ早期にホームに馴染めるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・入所当初より家族と十分に話し合う時間を設け何を要求されているのか耳を傾けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 見学や申し込みがあった時点から本人の様子を伺い、ここでのサービスが適しているのか話し合い他のサービスも含め説明するようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・生活動作や家事など出来る事は本人に行ってもらっている。又、利用者の「昔の知恵」を借りながら共に暮らしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・面会の際、本人の様子を伝えるように努め利用者が過ごしやすいよう家族より助言をいただくこともある。 ・病院の通院や利用者の外出を家族の方にも行っていただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・近所に散歩に出た際、顔なじみの人との会話などが出来る時間を作っている。 ・散髪の際、それまで通っていた美容院に現在も通っている利用者がいる。 | 施設内の犬と共に散歩する時は、顔なじみの人と会うことが多いのでゆったりと会話を楽しむ時間を取るようになっている。近所の方と「葦まき」作りをしたり、家族の協力を得て、これまで通っていた美容院に通ったり、墓参りなどをして、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・トラブルになる前に職員が仲立ちとなるよう努めている。 ・家事など利用者間で協力してやっていただくよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・サービスが終了しても行事の際にボランティアに来てくださる家族がいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・アセスメントシートに目を通し、より深い話が出来るように声をかけている。 ・誕生日などを計画する時は利用者に楽しんでもらえるよう計画している。 | 日々のケアの中で、アセスメントシートを参考にしながら、住んでいた地域の話や昔の話をして、入居者に添ったより深い話が出来るような声掛けを工夫している。誕生日は入居者の思いを前もって把握し、担当者が企画を立て、出来るだけ誕生日当日に実施するようにしている。家族の参加や協力を得ることもある。意志疎通が困難な場合は本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・アセスメントシートに目を通し、それを元に利用者本人から話を聞いて把握するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・日誌や申し送りを聞き把握するよう努めている。 ・利用者の生活リズムを重視し無理のない生活を送れるように記録などを活用し情報を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・職員ミーティングで利用者の対応の仕方についての話し合いが出来ている。 ・ミーティングで話し合った結果がケアプランに反映出来るよう努めている。 | 入居者や家族の意向を踏まえながら、モニタリングや記録を参考に、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。モニタリングは毎月、計画見直しは6カ月に1回、状態に合わせて随時の見直しも行っている。家族等の来所や便りもなく、本人からの意見や要望も聞くことが難しいケースもあるが、職員間で話し合い、本人がよりよく暮らせるような計画作成に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・個人記録に記入し、職員ミーティングでも話している。 ・個人記録の他業務日誌にも記録し実践の結果や情報が職員全員で共有できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・本人や家族の状況に合わせて医療機関への対応や外出等の支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・図書館の利用や地域の行事(ゴミ拾い、盆踊りなど)に参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・入所前からかかりつけ医がいる場合は入所後もその関係を続けている。 | 入所時にかかりつけ医か協力医の希望を聞いている。かかりつけ医の受診は家族に協力を得ているが困難な場合は支援をしている。内科は月に1回、歯科は2か月に1回主治医による往診がある。診察にかかわる情報や薬の管理は看護職が行い、申し送り等で周知をし、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・利用者に変化があれば記録や連絡をしている。 ・毎日の申し送りや個人記録で日々の気づきを看護師に伝えている。 ・上手に伝わってないこともあるが、相談は常にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ・入院時にはフェイスシートやサマリーを持参し入院治療に必要な情報を提供している。又、地域連携室を通し利用者の入院中の情報を提供してもらっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入居時に本人、家族から現時点での終末期の考えを聞き事前指定書に記入してもらっている。又、利用者の状態によって都度考えを確認しそれが実現できるかかかりつけ医に相談しながら取り組んでいる。 | 重度化や終末期に向けた方針は入居時に事前指定書記入で確認をしているが、状況によりその都度本人や家族等と話し合い再確認をしている。家族や医師、看護師等と相談をしながら、その人にとって最善の支援ができるように努めている。看取りの実績もあり、終の棲家としての入所も増えてきている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・看護師から指導を受けることもあるが訓練はしていない。 ・法人内、外での研修に積極的に参加するようにしている。又直接看護師からの指導を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・施設で避難訓練を行っている。 ・地域の防災訓練に職員が参加している。 | 年2回、火災を想定した避難訓練を消防署立会の下で行っている。地震時の避難経路を話し合ったり、水害に備えた訓練も本年度中に予定している。地域の防災訓練に職員が参加しており、地域との連携も模索検討を継続している。備蓄は外部委託とし、25人分7日間の備蓄がある。火災警報器や通報機の問題は継続課題となっている。 | 火災警報器や通報機が設置されている部屋は、薬品庫ともなっているため施錠されている。設備的なものであり、施設内では即座に解決できない課題もあると思われるが、職員の英知を結集して、薬品庫との分離を考えるなど、出来ることから一歩でも解決に向けた方向を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・法人内でも接遇委員会があり、そこで勉強会なども行っており、人格や誇りを損なわないよう取り組んでいる。 ・利用者に対して敬語で話すよう心掛けている。 | 接遇委員会があり、接遇に心がけた施設運営がされている。入居者を尊重した丁寧な言葉かけに努め、言葉の言い換え表を作成し活用している。管理者は職員間の会話で気づいたときはタイムリーに注意指導を行っている。排泄時等はプライバシーに配慮し、記号に置き換えて情報交換をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | <ul style="list-style-type: none"> ・自己決定が出来るような声かけをしている。 ・外出の計画時は利用者に場所の希望を聞いたりしている。 普段の会話の中で思いや希望を聞くよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく希望に沿えるように支援しているが、職員の人数が少ない日などは希望に沿えない事もある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば理髪も行っている。又、ホームで白髪染めをしている方もいる。 ・着替えなどもご自身で選んでもらうように支援している。 ・清潔に気を遣っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事の盛り付け、片付けは職員と一緒にしている。 ・利用者が食べたいおやつ作りも行っている。 ・好き嫌いを把握しなるべく好みにあった食事の提供をしている。 | 献立は入居者の好みを取り入れ、職員が立てたものを栄養士がチェックしている。咀嚼や嚥下等に配慮したり、摂取能力に合わせて食器の工夫や時間もゆとりが持てるような支援がなされている。個々の「出来ること」を尊重し食事の盛り付けや後片付けを職員と一緒にしたり、おやつ作りなど楽しみな行事もある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事量、水分摂取量は毎日記録に残している。 ・自己摂取が困難な利用者は介助を行っている。又、普通食が基本だが咀嚼や嚥下が困難な利用者に対してはきざみやミキサー食を提供し使う食器にも気を配っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・本人に合ったケアをしている。 ・毎食後口腔ケアをしており、自分では出来ない利用者は職員が介助している。 ・毎晩義歯消毒をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | <ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表に記録し排泄パターンを把握できるようにしている。 ・夜間はリハパンでも日中は布パンツにするなどできる限り快適に過ごせるよう支援している。 | 排泄チェック表を基に、個々の排泄パターンを把握し、素振りや習慣を見ながら言葉がけや誘導に努めている。日中、布パンツで過ごせる入居者もいる。便秘についても、看護師等各職種間で話し合い、情報を共有しながら予防に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日のレクリエーションの中で体操を取り入れ体を動かす時間を作っている。 ・便秘が気になる場合は個別に水分をすすめたり運動の声かけをしている。 ・かかりつけ医に相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には入浴日が決まっているが、入浴を拒否する利用者は順番や日にちを変えたりして落ち着いて入浴できるよう対応している。 | 週に2～3回の入浴で、基本的に入浴日が決まっている。個々に合わせて湯温や順番を配慮しながら個浴でゆっくり入浴できるよう支援をしている。入浴拒否者には、言葉がけの工夫や日にちを変更するなど対応したり、機械浴を利用して安全・安楽な入浴支援に努めている。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯などを楽しむこともある。 | |
| | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく本人のタイミングで休んでもらうようにしている。 ・日中でも疲れているようであれば横になって休息していただく。 ・かかりつけ医に相談し眠剤を処方されている利用者もいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・看護師より説明を受け理解し支援を行うようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活歴や力を把握し喜んでもらえるよう支援している。 ・得意な分野の家事を手伝っていただくようお願いしている。 ・壁に飾る作品作りにも参加してもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・外出行事などの計画を行っている。 ・誕生日などには自宅のある地域をドライブしたりすることもある。 ・家族の協力で毎週決まった曜日に外出することもある。 | 天候や入居者の体調に配慮しながら日々の散歩に出かけ、季節を感じたり、地域の人との出会いを楽しんでいる。四季折々の外出行事を計画したり、誕生日には家族の協力を得ながら、希望に応じたドライブや好きなものを食べに出かけるなど支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | mo | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・紛失などのトラブル防止のため基本的には自分で持っている利用者は数人しかいない。 ・事務所の金庫で預かっている方もあり自販機でジュースを買う事もある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・希望がある利用者は電話をかけたり手紙のやり取りをしている利用者もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・リビングには季節に合った飾りつけや行事などの写真を貼っている。 ・飾っている写真はふた月ごとに変えている。 | 吹き抜けのある高い天井は明るく開放感がある。左右のユニットの食堂兼居間は、ワンフロアとなっており、入居者の動きや気配が一目でわかるようになっている。居間や廊下の壁には、季節の飾り物や行事の写真が飾られている。入居者はゆったりした雰囲気の中でテレビを見たり、会話を楽しんでいる。共用のトイレの壁紙が大幅に剝がれているので、機能的に安全で安心して使用できる場所としてどうかと懸念される。 | 施設内で出来ることではないが、常に目につき、何とかならないかとみんなが思っていることでもあるので、法人への早めの対策上申が望まれる。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・一人がけの椅子だけでなくソファも設置してあり思い思いに過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・利用者や家族の希望で家で使い慣れた家具やテレビを使っている方もいる。 ・誕生日会やイベントの写真を居室に貼り、自室で生活しているという意識作りをしている。 | 家族や本人と相談しながら使い慣れた家具や小物、テレビなどを持ち込んでいる。地域の懐かしいお祭りのポスターが壁に貼られている。個々の思いをくみ取った工夫で、居心地の良い空間作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・危険のないよう配慮し安全に生活できるよう工夫している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2373500145 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 知多学園 | | |
| 事業所名 | 前山ホームらく楽(西) | | |
| 所在地 | 愛知県常滑市金山字前田129 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年3月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月4日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

農面に立地しており、施設前の川沿いを利用者の犬と散歩するのが日課となっている。町内会に入り地域行事にも積極的に参加していることから近所の方とも顔なじみで畑をやっている方から野菜の頂き物があったり収穫をさせていただいたり交流が続いている。また、日頃お世話になっている地域役員の方、ご家族やボランティアさんを年に2回の食事会に招待し、交流を図っている。

医療面では昼間、看護師が在籍しており必要時の受診、家族への医療的な説明や報告などは看護師が行っているため、利用者、家族共に安心して過ごすことができている。家族の希望から看取りを行うケースも度々あり終の棲家として最期まで利用者に寄り添ったケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い田畑と秋桜畑を眺めることができる集落の一角にオレンジの屋根とクリーム色の平屋建てグループホームが建っている。この地に移転して8年目を迎える事業所は、町内会に加入し、地域行事「盆踊り大会、歩こまいか大会、敬老会など」の際には、職員が事前の打ち合わせから運営に関わるなど地域の一員としての役割を担っている。入居者と一緒に地域行事に参加したり、日々の散歩を通して、また、年2回お世話になっている地域の役員やボランティア、家族等を招いての食事会などをして交流を深め、地域に溶け込んだ暮らしをしている。入居者は、吹き抜けの明るい居間で食後のひと時、想いでアルバムを懐かしそうに見ながら、会話をしたり、テレビを見たりしてゆっくりと過ごしている。看護師を中心に入居者の身体状況の把握や職員全員による入居者にしっかり寄り添ったきめ細やかなケアが、本人や家族に伝わり、終の棲家として望まれるようになってきており、見取りを希望する入居者や家族が増えている。

tiiki gyujiheno s

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・地域の催しや行事には積極的に参加している。 ・理念を事務所に掲げており、管理者と職員で共有している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の催しや行事には積極的に参加している。 ・近所の方のご厚意で野菜の収穫をさせていただいている。 ・町内会に加入している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・地域の方に運営推進会議に参加していただいている。 ・ボランティアさんや地域の方に施設行事に参加していただき実際に見ていただいて利用者と介護者の生活を理解していただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・人生の大先輩として尊敬し利用者様と接し介護する努力をしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・認定調査を中心に連絡を取り合っている。 ・運営推進会議を中心に取り組みを伝えている。また、意見や感想をいただいている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・室内を徘徊する利用者を危険のないよう見守りしている。 ・研修に参加し理解に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・研修に参加し理解に努めている。 ・日頃から言葉使いにも注意をはらい、虐待に繋がることのないよう職員全員で意識している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・制度を利用している利用者もあり、必要があれば後見センターの方と連絡をとっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所することが決まった時点から家族と連絡を取り、不安や疑問がないよう尋ねることを心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・運営推進会議、行事で意見や要望を伺う機会をつくっている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・職員ミーティングで意見を聞いている。 その他、年に2回の面談でも要望や思いを聞くようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・キャリアパス要件と人事考課面接の連動した取り組みを行っている。 ・より働きやすいように福利厚生充実にも努めている。 ・できるだけ希望の休みがとれるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・面接などで要望を聞き、希望する外部研修に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・愛知県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修会などを通じて交流がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・本人とコミュニケーションをとることで思いや要望などを聞き出している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・家族が面会にみえた時は意識的に会話をし関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・申し込みの段階で、本人・家族の実情を伺い当ホームが今の時点で本人に適しているのか、そうでなければ何のサービスが必要なのかという内容まで話し合いが出来るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・できるだけ様々な作業を共に行い、時には知恵をもらいながら職員と利用者が支え合う関係を築けるよう努めている。 ・起床から就寝までの生活のケアをしながら寝食を共にし生活していることを実感している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・本人の好みや必要な物を家族に相談し利用者が生活しやすいよう共に支援している。 ・月に一度家族へ手紙を送ることで利用者の普段の様子をお知らせしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・家族にも協力してもらい、美容院へ行ったり自宅に寄ったりしてもらっている。 ・身元引受人に確認した上で出来るだけ今までおつきあいのあった知人や家族との面会や外出をすすめている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・新しく入所された利用者に対して、職員が仲立ちとなり他の利用者に関わりがもてるよう支援している。 ・利用者が出来る作業を利用者同士協力しあって出来るような機会を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・サービス利用が終了された家族が行事などにボランティアとして参加して下さっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・ケアプラン作成時又は日常生活の中で要望や希望を聞き出し実践できるよう努めている。 ・日々の生活の中で思いや希望を聞いたり職員間で話し合いケアに努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・入所前の担当ケアマネージャーや本人家族から今までの生活歴や暮らし方などの情報を聞き取りフェイスシートを作成。各職員がそれを見て把握出来るようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・状態に変化があった場合はその日の申し送りや職員が周知できるようにしている。 ・心身状態など利用者の様子やバイタルチェックにより把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・家族の面会時に意見や希望を聞いたり、本人とじっくり話をする場所と時間を作り現状に即した介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・個人記録にケアプランを載せその日の結果や気づきを当日出勤者が記録に残すようにしている。 それらの情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・本人の体調の変化や家族の生活状況の変化などがあれば、それまでとは違ったサービスの提供方法で互いに不安なく生活できる方法を提案するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・町内の盆踊りをはじめ地域の行事参加やボランティアの訪問等で交流の機会を設け楽しむことができるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・入所前からのかかりつけ医に引き続き通院してもらっている。 ・利用者の家族が受診に行けない場合は施設側で介助したり往診にも対応している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・普段の生活の中で身体に異常があった場合は看護師に報告している。 ・気づきや情報を記録に残したり直接看護師に伝えるなどしてその時必要な医療が受けられるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・地域連携室と通じて関係を築いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・終末期のあり方について家族と話し合い方針を決めている。 ・本人、家族の考えを伺いできるだけ希望に沿えるよう話し合い利用者を支えるケアに取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・急変時や事故の際は看護師に報告し指示を受けている。 ・研修に参加したり看護師と連携し行っているがもっと定期的に行い実践力を身につける必要があると思う。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年に2回の火災避難訓練を行っている。 ・水害の避難訓練を今年中に実施予定。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・生活歴や今まで暮らしてきた利用者の地位などを考慮しながら言葉かけや対応を行うよう努めている。 ・言葉使い言い換え表を事務所に掲示し丁寧な言葉かけをするようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・あらゆる場面で自己決定ができるように選択肢を設けたり職員が答えを決めずに声かけするよう努め希望がなるべく表出しやすいよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・入浴や食事など利用者の希望や状態に合わせて行うようにしている。 ・食事や体操の時間は決まっているが、本人の体調やペースに合わせて、無理強いをせず臨機応変に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・清潔な身なりで生活出来るよう汚れた衣類は着替えていただいている。 ・入浴後の着替えを本人に決めてもらい一緒に準備をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ・利用者の好みの献立を取り入れ、盛りつけを手伝っていただいている。 ・食事はもちろんだが、おやつや飲み物も本人の好みに合わせて決めている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・お茶がすすまないようであれば他の種類の飲み物を提供している。 ・チェック表に食事量、水分量を記入し一目で把握できるようにしている。不足している場合は状態や好みに合わせ形態や内容を工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・毎食後行い自身で出来ない利用者に関しては職員が介助している。 ・本人にあった歯ブラシやスポンジブラシを使っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・排泄の失敗が少ないようなら布パンツを使用している。また、本人の排泄パターンで誘導している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・水分摂取を心掛け、お茶、ジュースなど好みの物を提供している。 ・一度にたくさんの水分を摂れない方にはこまめに少しずつ摂っていただいている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ・外出や面会がある場合は曜日や時間をずらしている。又、順番の希望があれば出来るかぎりそのように対応している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・電球の明かりを調節したりエアコンを使うことで入眠しやすい環境をつくっている。 ・リビングで過ごしていてもウトウトされたり机に伏せている方がいれば居室で休んで頂くよう声をかけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・看護師と連携して行っている。薬の変更があった場合は特に注意深く様子観察をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・季節の花を見に出掛けたり、利用者の誕生日にはみんなでお祝いしている。 ・裁縫・洗濯物たたみなど得意な事をやっていたいでいる。 ・お花の先生だった利用者には花瓶に花を生けていただいている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・天気や体調に考慮しながら散歩に行っている。 ・計画して車で出掛けることもある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・利用者によってはお金を(小遣い程度)を職員が金庫で預かり希望に応じて欲しい物を買うよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・家族に電話したいという要望があれば行うことができる。 ・大切な手紙や郵便物は本人と一緒に確認をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・トイレの壁紙がはがれたままになってしまっている。 ・リビングには季節にあった飾りを利用者と一緒に作成し少しでも部屋の中で季節感が出るよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・共有空間にはテーブル席やソファ席があり好きな場所で過ごす事ができる。 ・気の合った利用者同士でテーブルを囲みテレビを観たり新聞広告を読んだり自由に居室に行ける環境である。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・清潔を保つため居室の整理を手伝い本人の馴染みのある物を置いている。(布団・枕など) ・出来ている部屋とそうでない部屋がある。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・トイレにはわかりやすいよう貼り紙がしてある。 | | |